

令和7年度 大津市立日吉台小学校 学校評価書

【評定】 A：目標を上回る達成 B：目標を達成または概ね達成 C：目標を達成せず

中項目	小項目	教職員自己評価			学校関係者		今後の学校改善に向けて	
		小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見、提言等		
学び合い	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	A	B	○朝の会や学級活動、帰りの会など、一日のあらゆる場面において、友だちや学級のよさや成長に気づき交流する機会を設けている。また、お互いが支え合って活動する機会も意図的に設け、常に他者へ意識を向けるようにしている。	A	* 授業参観では、先生方の創意工夫された授業を見せていただいた。子どもたちも熱心に学習に取り組んでいた。すばらしかったです。	* 学習や活動を通して、他者を思いやる児童の姿が見られるようになってきた。引き続きそういった姿が見られるよう、各学級で工夫を凝らしながら指導を続ける。	
	2 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	B		○教科学習を中心に、課題解決に向けて友だちと交流し考えを深める機会を設けている。その中で、効果的なICTの利用についても検討し、実践を行っている。		* 他者を思いやることは大切なことです。今後も引き続き指導を願います。		* ICT活用は進んでいるが、使い方については教員内で開きがある。全職員がより活用の幅を広げ、学習効果を上げるために、ICT活用に特化した校内研修を充実させる。
	3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	B		○校内研究のテーマG5:H22マに沿って研究を積み重ねていくことができた。前回の研究を活かし、新たな提案をしていくことができた。		* 保護者アンケートでは、この項の評価が高いようですが、保護者は何を見て、知ってそう感じているのか分析して、それが真に子どもたちの学び合いにつながっていくようにする必要があります。		* 校内研究会を通して、児童の課題解決に向けた協議を行い、授業実践に生かしている。さらなる学力向上、学習習慣の定着に向けて引き続き協議を継続する。また、今年度のように学業テストの結果や課題を活かしながら取り組み、学力保障や成長につなげていきたい。
道徳教育	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A	A	○人権週間やたてわり活動など他教科との関連付けも意識しながら、他学年との交流の中で道徳教育を考えた。	A	* 「友だちを傷つけたり、迷惑をかける行為は決して許されない。」という毅然とした姿勢で指導に当たっていただきたい。	* 学校全体で、人権に関する絵本の読み聞かせなどを実施し、低学年にも幅広く人権感覚を養う取り組みをすることも検討すべきだ。また、その様子や内容を学級通信・学校通信にて掲載するのもよいと考える。	
	5 ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	B		○保護者等へ授業参観などで授業を見て頂き、児童と一緒に学校や家庭での生活を考えるきっかけづくりを行った。		* たてわり活動は良いことだと思います。		* 道徳の学習や行事の中で見受けられた児童の様子（道徳的価値とつなげて）を、保護者に発信していけるとよいと考える。
	6 保護者等への道徳科の授業公開	A		○保護者に道徳における学習の大切さや子どもたちの様子を伝えたり、道徳教育にかかわる活動に参加してもらったりして、子どもたちの良さを見つける機会を設けた。		* 「日吉台まつり」や「もちつき大会」などで接すると、きちんとあいさつやお礼が言える子どもが多いと思います。ゴミの持ち帰りなどのマナーも守られて素晴らしいと思います。		* 道徳参観の内容であったり、日ごろの道徳の学習での成果や課題を、教員間で共有できるよう努めていきたい。（メタモジやpublicの共有フォルダ等活用）
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	B	○体育委員会の企画でスポーツランキングを実施し、体を動かす気持ちよさを体験させている。	B	* 今年度は持久走大会がなかったと聞きました。日々のがんばりを通して子どもたちの記録を伸ばそうとする機会を確保してあげてほしい。	* 教員の授業力向上が最重要だと考える。全ての子ども達が「体を動かすことの心地よさ、楽しさ」を実感できる授業を目指したい。	
	8 体力づくりを推進する運動実践	B		○各学年で持久走大会（5分間走）を実施し、体力づくりを推進した。		* 体力が無いと十分な学習ができません。これからも楽しみながら、体力の向上を目指してください。		* 校内で、お互いに体育科の授業を見合ったり、体育科の授業研修を進めたりする必要性を感じる。
	9 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	B		○運動量の確保を最重要視し、授業改善に取り組んだ。		* 体力づくりは、個人人の「やる気」「元気」の源だと思います。食育と兼ね合わせた体力づくりへの意識づけも一考かと。		* 意欲づけ、習慣化、授業実践など様々な視点で「体力づくり」について共有・協議できる機会を設けたい。
指導改善	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	A	A	○校内研究では、言語活動に着目して授業づくりを振り返り、成果と課題を出すことができた。	A	* 「学校の勉強はよくわかる」という子どものアンケートの結果は素晴らしいが、マイナス評価の子どもたちに対する対策を特に大事にしていきたい。	* 本校児童の課題に即した授業改善や授業形態について、組織的・系統的な指導を進めていけるよう、今後も共通理解を図りながら研究を進めていく。	
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	A		○外部講師を招いて、国語科の授業づくりや言語活動の充実について学ぶことができた。教材研究や指導方法についても助言をいただいた。		* これからも工夫しながら指導を願います。		* 今年度の成果と課題から、次年度の研究の方向性を決め、取組を今年度だけのもの終わるのではなく、次年度以降も活用できるようにまとめておく。
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	A		○全員が公開授業を実施し、指導方法の改善や授業形態の工夫などについて探求することができた。		* 先生同士の共通課題、それを目標にお互いに理解を深めていく姿はすばらしい。		* 一年間の見直しを持ち、効率的な校務の進め方や、行事の見直し等について検討・精選していくことで、職員の超過勤務時間をさらに削減していく。

家庭・地域との連携・協働	13	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	A	A	○今年度もコミュニティ・スクールとして地域からの協力・支援が積極的で、総合的な学習の時間や栽培活動等各学年の教育課程に位置づけながら進めることができた。	A	* 地域からの様々な協力や支援体制が確立されていることをうれしく思います。	* 子どもや保護者との関わりを大切に、時間をしっかりと確保する意識を高める。また、保護者の子育てに対する支援については、学校だけでなくSCや教育支援センターなどへつなげ、一人一人に合った支援ができるように努める。	
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	A		○地域人材による講師や学習サポーター(ひよサポ)等に、様々な学年で授業に入りご講話いただいたり、協力していただいたりして有意義な学びにつながった。		* 地域と良く連携されていると思います。		* 学校より、学年通信等の発行に加え、HPの更新を定期的に行うことで充実させ、学校の取組を保護者・地域に伝える。
	15	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	A		○学校便りや学年通信、HP等で情報発信に努めた。今後も学習面への取組についても保護者や地域にお知らせし、共通理解しながら取り組んでいきたい。		* 「学校だより」は、児童のいない家庭にも学校の様子を広報するのに役立っている。		* 来年度も、教育課程の中に、地域人材を有効活用する指導計画を位置づけ、学年の実態に合わせた効果的な実践を行う。(防犯教室・人権学習・総合学習・生活科等)
保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	B	○毎日のスクールガードさんの見守りのおかげで、保護者や子どもアンケートで「安全・安心に登下校ができた」の回答が90%だった。防犯教室は、6月に1年、3年、5年の児童の参加という形を固定化して実施し、2、3年の児童に安全教室を実施することができた。	B	* 地域からの様々な協力や支援体制が確立されていることをうれしく思います。	* 子どもや保護者との関わりを大切に、時間をしっかりと確保する意識を高める。また、保護者の子育てに対する支援については、学校だけでなくSCや教育支援センターなどへつなげ、一人一人に合った支援ができるように努める。	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	B		○保幼小連絡会議などを通して、児童の情報共有に努めると共に、気になる児童については、個別に保幼の教員と連携して、児童が学校生活に慣れ、安心して過ごせるようにすることができた。		* 保幼小及び小中連携を大切に推進していただいていることに感謝いたします。		* 地域での保幼小連携を大切に促していく。
	18	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	A		○園児の体験入学を行い、入学への不安をときほぐし、小学校生活に関心をもたせるようにすることができた。		* これからもスムーズな連携を		* 保幼との連携を強化し、スムーズな入学につなげる。
生徒指導	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	A	A	○保幼小の学びのつながりを深め、円滑な接続を図るために、カリキュラム作成に取り掛かった。	A	* 子ども一人ひとりに密接な関係のあるところ。ありがとうございます。	* 2年連続低下している結果を考えると、実施方法に何か工夫が足りないのでは。	
	20	生徒指導・教育相談体制を確立と組織的な推進	A		○小中の学びのつながりをスムーズにするための連携会議に参加し、個別の対応の要する児童について、丁寧に引継ぎを行うようにした。		* 児童数が少ないことを、家庭・地域・学校が協力して子どもたち一人ひとりに目を届かせる利点にしたい。		* 卒業前だけでなく、4月当初より中学校と連携し、スムーズな入学につなげる。
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	A		○日頃から校内の巡回、週1回定例会議での情報共有を通して、全教職員で全児童の理解を図り、指導に生かしている。放課後の職員室でも、気軽に情報交換することができ、報告・連絡・相談がしやすい関係性が保たれている。		* 全職員が情報を共有して、早期発見に努めてください。		* 異学年の児童についても情報共有ができており、全職員で全員の子どもを見守り育てる雰囲気ができているため、未然防止、早期発見ができています。今後も継続していく。
特別支援教育	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	A	A	○教務が一日のうちに何度も教室を見回することで、実態把握、問題行動の早期発見に努めている。教室が閉鎖的にならず、開放的であることで、複数の目で子ども達を見守ることができている。	A	* 「先生は自分のことをよくわかってきている」「困っているときは先生に相談できる」のスコアが高いのは、先生方の努力によるものだと思います。	* 非常に高評価で日頃の家庭・地域との連携が円滑に進んでいる表れかと思えます。	
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	A		○月1回の「キラキラさんチェック」を通して、子どもの困り感をキャッチしたり、教育相談を行ったりして、児童の安心・安全につなげている。		* 先生方に心の余裕を持ってもらうことが、子どもへの気配りの基本である。学校からの情報発信は子どもの学校生活全般に関わることは多いほど良いと考える。		* 児童の活動風景や必要な情報など、担任が積極的に発信することで保護者に知らせることができている。生徒指導だよりについては、SNSやネット関係を中心に扱ってきたが、学校生活全般に関わる内容についても発信を検討している。
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	A		○スクールカウンセラー来校時には、児童の相談や保護者との個別面談を実施した。スクールカウンセラーとの連携により、不登校、特別支援を必要とする児童、その保護者についての関わりについての助言から対応を考慮することもできた。		* ネットリテラシーの向上。時代に合わせて、その都度、具体的な事例を取り上げる等して、ネットリテラシーの向上をめざす。		* 保護者との連携強化 家庭でのスマホやゲームの管理など、家庭でしかできないことを家庭に実施してもらうよう、促していく。
満足	25	児童生徒の学校満足度	A	A	○家庭でのスマホトラブルに対しても、保護者向けに文章を配布したり、全校指導をしたりと、事前防止に努めている。	A	* 先生方に心の余裕を持ってもらうことが、子どもへの気配りの基本である。学校からの情報発信は子どもの学校生活全般に関わることは多いほど良いと考える。	* 非常に高評価で日頃の家庭・地域との連携が円滑に進んでいる表れかと思えます。	
	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	A		○個別指導計画および支援計画については、各学級の担任から気になる児童の保護者との相談を重ねていき、作成に至ったケースがいくつかあったのでおおむね良かった。また、計画に基づいた校内での活用もできた。		* 保護者との良好な関係を保ちながら、子どもの課題や成長の共通理解が大切であると思います。		* 前期目標は保護者としてしっかり確認できておらず、12月の個別懇で成果と共に次年度に向けての確認をしている。(当初懇は早く、まだ作成できていないため)
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	A		○個別指導計画を立て、児童に応じた支援をすることができた。保護者と共有することができた。必要に応じて特別支援学校の巡回相談も取り入れるとよいと考える。		* 保護者との連携を大切に		* 今後も継続的に校内委員会で検討し、関係機関と連携を図りながら支援が必要な児童への個に応じた支援を実施する。また、気になる児童が新たにいたり、関係機関と連携をとる必要が出たりした場合にも、校内委員会をすぐに開き、対応していく。
満足	24	関係機関と連携した相談体制の充実	A	A	○特別支援学級担任を中心に、支援級の児童だけでなく、通常学級の児童に対する弾力的な体制づくりができた。また、校内委員会での情報共有・体制の確認も行ってきた。関係機関とは、教育支援センター、SCとの連携を図り、児童のよりよい学習体制を検討することができた。	A	* 子ども一人ひとりに寄り添う、小規模校ならではの連携体制がとれていることは非常にすばらしい。	* 6年生までに何か目標達成できるよう努力してもらいたい	
	25	児童生徒の学校満足度	A		○児童対象のアンケートで、昨年度は「学校は楽しい」「勉強はよくわかる」とプラス回答をした児童はともに86%であったが、今年は「学校は楽しい」が92%、「学校の勉強はよくわかる」が90%と上昇している。また、どの項目においても、プラス回答の割合が増えている。		* 「学校生活が楽しい」という子どもが多いのは、「学校の勉強がよくわかり、仲の良い友だちがいる」ことが満足の大きな理由だと思う。		* どの項目においても、マイナス回答をした子どもに目をむけ、満足度が上がるよう子どもに寄り添った取組を続ける必要がある。
	26	関係機関と連携した相談体制の充実	A		○教師から見た子どもの満足度は下がっているが、実際の子どものアンケート結果の平均値は昨年度2.46から2.57にポイントアップしている。		* 学校が楽しい」という子どもたちのアンケートが示すように、楽しい学校で楽しい仲間と一緒に過ごす学校生活が、子どもたちの最高の満足度かと思えます。		* 子ども一人ひとりをしっかり見て、とらえ、一人ひとりを大事にする大津の教育を進める。
満足	27	関係機関と連携した相談体制の充実	A	A	○評価と内容が不整合な点はよくわからない。マイナス回答は気持ちが内向きになりがちで、気持ちの発散の機会が少ないからではないか。	A	* 評価と内容が不整合な点はよくわからない。マイナス回答は気持ちが内向きになりがちで、気持ちの発散の機会が少ないからではないか。	* 毎月行っている「キラキラさんチェック」や普段の子どもの様子から、子どもの不安感や困り感をとらえ、個別に対応していく。	
	28	関係機関と連携した相談体制の充実	A		○評価と内容が不整合な点はよくわからない。マイナス回答は気持ちが内向きになりがちで、気持ちの発散の機会が少ないからではないか。		* 評価と内容が不整合な点はよくわからない。マイナス回答は気持ちが内向きになりがちで、気持ちの発散の機会が少ないからではないか。		* 毎月行っている「キラキラさんチェック」や普段の子どもの様子から、子どもの不安感や困り感をとらえ、個別に対応していく。
	29	関係機関と連携した相談体制の充実	A		○評価と内容が不整合な点はよくわからない。マイナス回答は気持ちが内向きになりがちで、気持ちの発散の機会が少ないからではないか。		* 評価と内容が不整合な点はよくわからない。マイナス回答は気持ちが内向きになりがちで、気持ちの発散の機会が少ないからではないか。		* 毎月行っている「キラキラさんチェック」や普段の子どもの様子から、子どもの不安感や困り感をとらえ、個別に対応していく。